

通し番号	4 1 4 8
------	---------

分類番号	17-24-12-01
------	-------------

(成果情報名) ‘湘南一本’の作期拡大
[要約] ‘湘南一本’を10月中旬から1月にかけては種し、定植時から5月上旬まで継続してトンネル被覆すると、生育が促進されるとともに抽だいも効果的に抑制され、収穫開始時期は7月上旬まで前進できる。これにより従来作型と組合わせて作期を翌年2月までの8ヶ月に拡大できる。
(実施機関・部名)神奈川県農業技術センター 野菜作物研究部 連絡先0463-58-0333

[背景・ねらい]

‘湘南一本’をできるだけ長期間収穫できるよう作期を拡大する。

[成果の内容・特徴]

- 1 10月中旬から1月にかけては種し、無加温ハウスで連結紙筒育苗（2粒まき）した後、畦幅120cm×株間2.5cmで定植し、定植から5月上旬までトンネル被覆を行い、3月下旬から土寄せを開始すると7月上旬から11月まで連続的に収穫できる（図1）。
- 2 葉鞘径6mm以下であればトンネル被覆による高温処理の有無にかかわらず抽だいしない。一方、10～11月は種であれば、定植後5月上旬までトンネル被覆して高温処理すると抽だいを効果的に抑制することができる（図2）。
- 3 9月は種では、トンネル被覆しても4月中旬までに70%以上の株が抽だいするが、その後発生する側芽は抽だいせず、6月には出荷可能な大きさにまで生育する（図3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 盛夏期には葉鞘の肥大が劣る
- 2 高温による葉やけ防止のため4月中旬以降はトンネルすそ換気を行う。
- 3 トンネル被覆による高温処理には25℃以上の温度が200時間以上（およそ1ヶ月）必要である。

[具体的データ]

図1 ‘湘南一本’の収穫時栽培歴

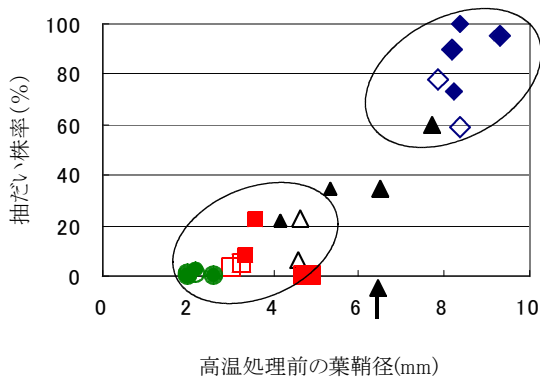
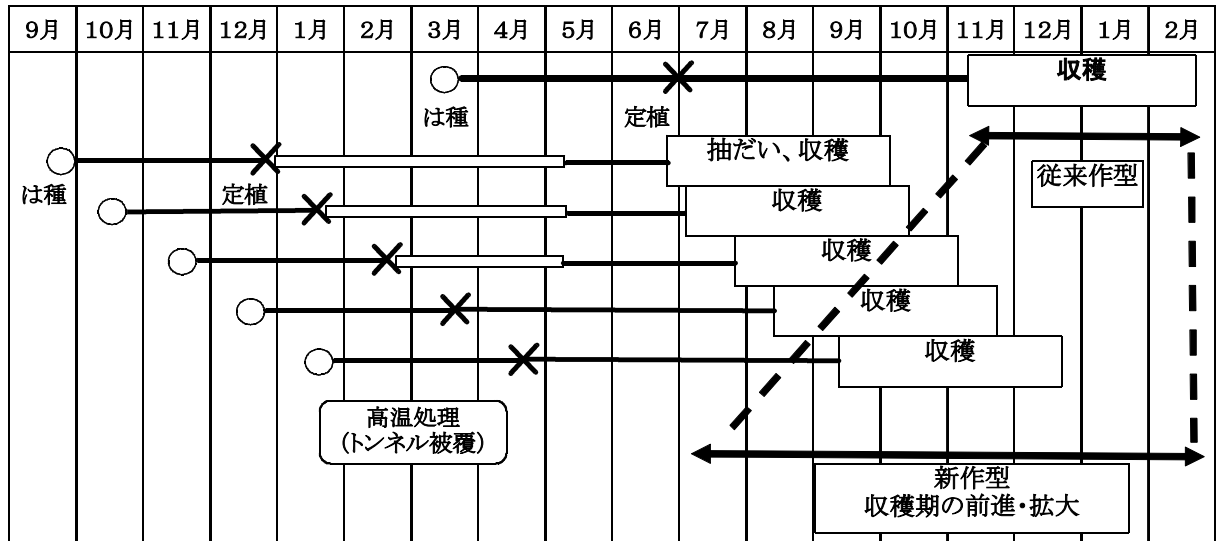


図2 2004年、2005年の高温処理前の葉鞘径とその後の抽だい株率との関係

- ◇ 9月高温処理 □ 11月高温処理
- ◆ 9月無処理 ■ 11月無処理
- △ 10月高温処理 ○ 12月高温処理
- ▲ 10月無処理 ● 12月無処理

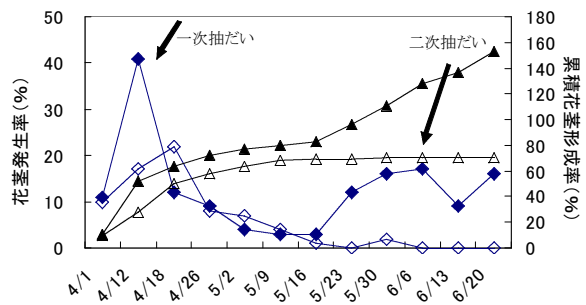


図3 9月は種の‘湘南一本’の時期別

花茎発生率及び累積花茎形成率

注)花茎発生率：(一週間毎の花茎発生数/定植株数) *100

花茎形成率：(累積花茎発生数/総株数 × 100)

◇:高温処理区 ◆:無処理区

[資料名] 平成14～17年度試験研究成績書(野菜)

[研究課題名] 国際化に対応した国産野菜等の持続的生産技術の開発

[研究期間] 平成14年度～平成17年度

[研究者担当名] 高柳りか・河田隆弘・北宜裕